



Principia I 活動報告

今号は 10 月から本格的に探究活動が始まった Principia I の活動報告を行います。
今回は Principia I のみ連携している研究機関から代表して 3 名にお話を聞きました。

【Principia I 研究機関一覧】

○県立金沢文庫 ○防衛大学校 ○国土技術政策総合研究所 ○横須賀リサーチパーク (YRP) ○花王
○横須賀市自然・人文博物館 ○港湾空港技術研究所 ○神奈川県立保健福祉大学 ○慶應大学 SFC
○京浜急行株式会社 京急建設 ○JAMSTEC ○SoftBank ○アーティスト村 ○さくらインターネット
○宇宙航空研究開発機構 JAXA ○横浜市立大学附属病院 (放射線部・看護部) ○横浜国立大学教育学部

「気候変動の影響を受けた自然災害から災害弱者をまもるには」

研究機関：国土技術政策総合研究所

私たちは近年の気候変動によって自然災害が拡大していることを踏まえ、特に高潮に着目して、お年寄りや子どもなどが安全かつ迅速に避難できる方法を研究しています。そこで私たちは、自動車の利用が避難において有効なのではないかという仮説を立てました。今後は高潮シミュレーションを用いて横須賀市の被害を受けやすい地域を予測し災害弱者の分布図と重ね合わせることで、自動車による避難がどのくらい有効なのかを検証していく予定です。

1 年 1 組 鈴木 小桃



「食のサーキュラーエコノミーの構築」

研究機関：京浜急行株式会社 京急建設

私たちの研究テーマは食のサーキュラーエコノミーの構築についてです。サーキュラーエコノミーとは「循環」を意味しています。スターバックスさんの食品ロスに対する取り組みを参考に京急電鉄さんの優れたブランド力と豊富な輸送手段をお借りして、地域全体が持続可能になるような取り組みを行っていきます！具体的には、京急ストアの方で出てきた廃棄物を肥料にして、トラックや貨物車を用いて運送し、農家さんに使ってもらうことで循環させることを目標にしています。今後の活動において、皆さんの力をお借りする場面もあると思いますが、その時はご協力よろしくお願いします！

1 年 2 組 伊藤 眞翔



「火山灰の種類と割合による強度変化」

研究機関：アーティスト村

私達は火山周辺地域で処分が困難となっている火山灰を陶器として有効活用し、地域貢献につなげることを目的として実施しました。2 種類の火山灰を様々な割合で配合して陶器を作製し、その強度を測定します。火山灰の種類や配合割合によって、強度がどのように変化するか詳しく調べることで、地域資源としての火山灰の新たな可能性を検討しています。今回の研究で得られた結果を基盤として、今後は火山灰を単なる廃棄物として扱うのではなく、陶器の材料の一部として活用することで、地域産業の活性化に加え環境負荷の軽減につながることを期待しています。

1 年 6 組 中村 環

